

数学

広島大学 (前期) 数学 (理系)

<全体分析>

試験時間

150分

解答問題数

5題

解答形式

記述形式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

IAIIBC型との共通問題が1題から2題に増えた(1題は一部共通)

その他トピックス

融合問題が4題から2題に減った。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	確率	A	2個のさいころに関する確率	易
[2]	式と曲線	C	楕円と直線の交点	標準
[3]	空間ベクトル	C	四面体の体積	やや易
[4]	関数の極限 微分法、積分法	III	関数の最大、面積と極限	やや難
[5]	数列の極限、 微分法	III	漸化式で定められた数列の評価と極限	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

まず、全分野にわたり基本を身につけたうえで、融合問題にも取り組んでおこう。

計算量が多く、複雑な計算の問題にも対応できる計算力を養っておこう。